

末吉橋 すえよしばし ● Sueyoshi-bashi
(東横堀川)

この末吉橋は、江戸幕府より海外貿易の朱印状を得て、中国から東南アジアへと船を出し、南蛮貿易で活躍していた豪商末吉孫左衛門(すえよしまごぞえもん)が、通行人の便を図り架けた橋だと伝わる。当初は、末吉孫左衛門の別邸が橋の西詰にあつて、孫左衛門橋と呼ばれていたとも伝わる。ちなみに末吉孫左衛門は、元和8(1622)年に完成した長堀川の開削にも一役かったと伝わる。

江戸時代の末吉橋は町橋であったため、橋筋の町々からの醸金(きょきん)によって維持されていたと考えられ、明治に入っても木橋のままだった。明治43(1910)年、市電第三期線事業により、市電が末吉橋西詰から玉造まで延長されるのに伴い、末吉橋も鋼橋に架け換えられた。

現在の橋は、第一次都市化計画事業に基づいて、昭和2(1927)年に鉄筋コンクリートのアーチ橋に架け換えられた。後の同46(1976)年に長堀川が埋め立てられた時に、橋幅を広くして以来今日に至る。橋の欄干には、随所に当時の面影を残すデザインが残っていて趣を感じるが、末吉交差点は松屋町交差点に、末吉橋通は長堀通と名前が変わった。

